

クシケマスオガイ *Cryptomya elliptica* (A. Adams)

【選定理由】

本種は内湾の砂泥干潟に生息する。県内でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。本種は潮間帯から潮下帯の砂泥底に生息するアナジャコ下目の巣穴を利用している(木村, 2012)。かつては伊勢湾周辺の海岸に死殻が多く打ち上げられ、生貝も普通であったが、1980年から2000年にかけて生息場所、個体数とも激減し、三重県側の伊勢湾では死殻が打ち上げられて採集される場所が比較的多かったものの、県内側の伊勢湾や三河湾では死殻が採集できる場所も確認できなかった。2008年に名古屋港沖で合弁の死殻が採集され(木村, 2010)、2008年2月には知多半島内海海岸で、軟体部が入った本種が寒波により約20個体が打ち上げられた。その後も知多半島南部の伊勢湾側では数カ所で生貝が継続して確認されている(佐藤・他, 2019; 木村, 未発表資料)。明らかな回復状況が確認されたので、前回(EN)よりランクダウンするべき種と評価された。



【形態】

殻長約20mmで、殻は卵形で膨らみは弱い。殻は白色で殻質は薄く、殻表には細い放射肋が密に走る。

【分布の概要】

【県内の分布】

近年、内海海岸など知多半島南部の伊勢湾側で生息が継続的に確認されている。

【世界及び国内の分布】

日本、インド洋、太平洋、紅海、国内では伊勢湾～九州、南西諸島に分布する(木村, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているため、本種の生息場所、個体数とも減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 木村昭一, 2010. クシケマスオ, p. 202.in: レッドデータブックなごや2010(2004年版補遺), 316pp. 名古屋市環境局.
木村昭一, 2012. クシケマスオ, p. 166.in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
佐藤大義・浅田 要・永井 僚, 2019. 南知多町内海海岸(伊勢湾)の貝類相. かきつばた,(44): 20-30.

(木村昭一)